

### 3.4.3 埋込み長さの影響

#### 【試験方法】

埋込み長さの影響を確認するため、アンカー筋に D13 を用い、埋め込み深さをアンカー筋径の 3 倍から 7 倍について付着試験を行った。

穿孔は  $\phi 18\text{mm}$  のコアドリルを使用し、所定の深さで穿孔した孔にセメフォースアンカーを充填し、アンカー筋 D13 の埋込み長さが 3da、5da、6da、7da となるようにアンカー筋を定着させた。試験条件を表3-20に示す。

表3-20 付着強度試験条件

アンカー筋	D13(高強度鉄筋)
穿孔径	$\phi 18\text{ mm}$
埋込み長さ	3、5、6、7 da
母材コンクリート強度	24.3 $\text{N/mm}^2$
施工方向	下向き

#### 【試験結果】

表3-21 埋込み長さと呼着強度

アンカー筋の呼び名	穿孔径 (mm)	埋込み長さ		最大耐力 (kN) $P_{\max}$	最大耐力時の変位 (mm)	付着強度*1 (N/mm <sup>2</sup> ) $\tau_{b1}$
			(mm) $l_b$			
D13	18	3da	41.1	43.0	0.77	26.2
		5da	65.8	83.1	0.79	31.7
		6da	80.4	100.7	0.86	31.4
		7da	91.7	110.8	0.82	30.3

\*1:  $\tau_{b1} = P_{\max} / (\pi \times \text{アンカー筋の公称径} \times l_b)$

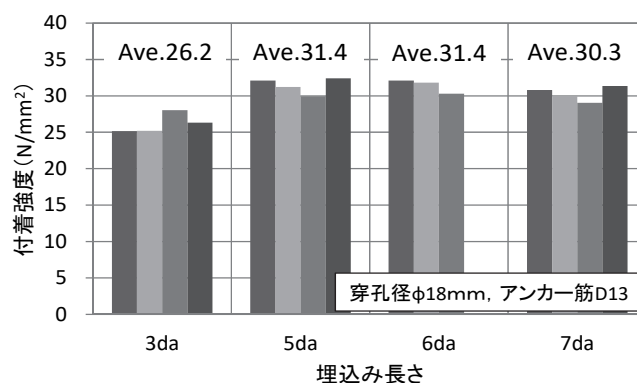


図3-19 埋込み長さと呼着強度

#### 【まとめ】

埋込み長さが 5da 以上であれば、付着強度の低下は認められない。

#### 【備考】

施工においては 7da 以上の埋込み長さで使用する。埋込み長さ 7da 未満で使用する場合、弊社までお問い合わせ下さい。